

進捗状況の概要（1ページ以内）

本事業「全学分野横断創生プログラム（NICEプログラム）」では、従来の学部の枠にとらわれない、複数の専門領域を全学的に横断して学ぶことができる新たな人材育成システム（主専攻・副専攻の融合改革）として、総合大学としての多様な専門領域を基盤としたメジャー・マイナー制を構築する。これにより、学生一人一人の問題意識に合った学問分野の魅力的な掛け合わせを提供し、アカデミック・アドバイザーによるきめ細かな学修支援体制を整備することで、総合大学の豊富な教育資源を活かしながら、学生一人一人の学びの動機づけを高めるオーダーメイド型の教育の実現を目指している。令和2年度は、令和3年度からメジャー・マイナー制に移行するための制度設計期間として位置付けられ、事業全体の制度設計、事業実施体制の整備およびFD、SD等を実施した。

(1) 全学的な改革構想と将来ビジョンの設計

令和2年度において、本学では激動する社会に適応し、大学自体のミッションの見直しを行った。その上で2030年に向けた「新潟大学将来ビジョン2030」をデザインし、本事業を基盤とした分野横断型教育システムの整備とオーダーメイド型の学修支援制度をその中核に位置付けた。その上で全学の教育改革WGである教育基本問題検討作業委員会において本事業の制度設計全般を議論し、令和3年度からメジャー・マイナー制の導入と24のマイナー提供が実現することとなった。

(2) 事業実施体制の整備

本事業は全学部のカリキュラムに関係する大規模な改革が必要となるため、学長のリーダーシップのもと、教育担当理事および学務担当副学長を中心として、全学組織および全ての学部が連携して事業を実施する体制を整備した。事業の主担当としては新たに横断的なプロジェクトチームとして「NICEプログラムミーティング」を設置した。また事業の改善に資するIRおよびFD・SDの体制を整備した。

(3) 事業内容および成果

具体的な事業内容として、「全学分野横断創生プログラム」では、令和3年度から令和6年度にかけて全10学部を対象にマイナーパッケージを段階的に導入することとしており、令和2年度はその準備を行った。その結果として、リスト制を活用したパッケージとして「アグロ・フードアソシエーツ」「ことづくり・マネジメント」「コミュニティ・マネジメント」「データサイエンスリテラシー」、モジュール制を活用した自由度の高いパッケージとして「学修創生」を新たに開講する手続きを進めた。これに既存の副専攻プログラムを組み込む形で、令和3年度は計24のパッケージ開講が決定した。さらに、全学会議である教務専門委員会を通じ、各学部の教育課程の卒業要件の中にマイナー学修パッケージを組み込む準備を進めた。具体的には、各学部の個々の規程において、どの区分でマイナー学修を進めるかを全学的に検討し、確定することができた。加えて、学修成果を把握するための教学システム改修の方針を定め、特任教員を採用してアカデミック・アドバイジングと教学情報の収集・分析体制を整えるとともに、ホームページ、パンフレット、動画コンテンツの作成を完了した。

(4) 全学的なマネジメント改革

令和2年度は上述した「新潟大学教育ビジョン2030」の設定、学内全体が連携した事業実施体制の整備を通じて、トップレベルの教育戦略の方向性が鮮明に示されるとともに、ビジョンに基づく制度設計・運営から、現場の教育実践、評価・改善に至るまでの循環的なサイクルを確立させることができた。これにより、全学レベルの教育戦略と個々の教育実践を連環させながら事業を実施することが可能となった。